

人種世界平等の出発点となった大東亜会議

「史実を世界に発信する会」会長

加瀬 英明

大東亜会議は、今からちょうど70年前のこの日でしたが、前の日から、この尾崎憲政記念館の前にあります今は国会議事堂ですが、帝国議会の議事堂で11月の5日に開かれ、そして70年前の今日、この日に「大東亜宣言」を高らかに採択をして、終幕いたしました。

人類が文字を持ってから、どのくらいの年数が流れてきたのか、5000年とか6000年とかいう期間が流れたと思いますが、人類の歴史と共に人種差別が常につきまってきたものです。しかし、70年前に開催されました大東亜会議は、初めての有色人種による国家リーダーのサミットであり、そして今日の世界では“人種平等”が、もう当然のことになっていますが、この大東亜会議がその出発点でした。ですから、人類の長い歴史に新しい時代を開いた、人類のあり方を変えた、本当に歴史的な会議であったことになりました。

私は1950年代末、アメリカに留学しました。その時はアメリカの黒人は、ほとんどの州で選挙権を持つことがなく、また教会から公共的な列車ですとかバスでも、乗る場所から、水飲み場から、全て黒人と白人の間に分けられていました。今では、黒人は自由に白人が使っていたレストランに出入りすることができますが、しかし私が留学していた50年代では、黒人はニューヨークのよいレストランなどに入ってくることは全くありませんでした。

日本が先の大戦を、大きな犠牲を払うことによって戦い、その結果、アジアの諸民族が解放されました。その高波がアフリカ大陸でもあって、アフリカでも次々と独立国が（生まれました？）。そういたしますと、外交官たちがニューヨークの国連本部、あるいはワシントンの新しいアフリカの大使館に来るようになりました。外交官ですから、差別することは許されません。そうなりますと、アメリカの黒人たちが「自分たちだけが差別されているのはおかしい」ということで、黒人たちが目覚めるようになり、1960年代に入りますと、マーチン＝ルーサー・キング師が率いる公民権運動が台頭しました。その結果、アメリカにおいても初めて、黒人が解放されるようになりました。

「先の大戦は民主主義国家だったアメリカと軍国主義の日本が戦った戦争だった。そして、正義の民主主義が勝った」ということを、占領下で教えられましたが、そんなことは、これは笑うべきことです。アメリカでは長い間、黒人と白人が性的な関係を結ぶことは犯罪とされていました。最後に1967年に、アメリカで3つの州で黒人と白人の間の性交渉が合法化され、許されることになり、そしてまた、結婚が犯罪ではなくなった。そして、黒人は完全に解放されることになりました。

先の大戦の前にアメリカの黒人は、野球のメジャーリーグの選手になることはできませ

んでした。あるいはゴルフコースにはキャディしか、黒人は立ち入ることは許されませんでした。で、ゴルフではもちろん、今日ではタイガー・ウッズが活躍している。テニスではウィリアムズ姉妹が活躍している。そして、黒人の大統領が誕生するようになった。これは、日本が先の大戦を戦ったからであり、また70年前に大東亜会議が開催されたからであります。ですから、新しい人類の歴史の出発点であった。

ところが日本では、「大東亜会議は、日本が先の大戦中に占領したアジア各地の“傀儡”を集めて催した」という、こういったことが日本の学校の教科書にまで載っています。

今日は、後ほどアメリカ・ニューヨークタイムズの東京支局長をされたヘンリー＝ストークスさんが講演をいたしますが、ストークスさんは著書の中で「そういうことを言う愚かな日本人こそ、占領軍の傀儡である」と書いております。

大東亜会議を正しく理解することによって、日本がアジアを「侵略した」のではなく、アジアを「解放した」ということが、日本国民にも理解されるようになるでしょうし、それからまた、世界が大東亜会議を評価することによって、いわゆる「日本がアジアを侵略した」という誤った史観が正されることになります。

今日は皆様とご一緒に、70年前の歴史的な有色人種の最初のサミットだった大東亜会議を祝う会を、最後まで皆様とご一緒に盛り上げて参りたいと思います。

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(大東亜会議70周年記念大会開会の辞より)